

長野県山形村図書館

今回の長野県訪問は町村立図書館や公民館図書室の視察が目的でした。

「終わりになき図書館ジャーニー」vol.36 で書いた松川村図書館から山形村図書館を紹介してもらいました。山形村は空港に近いので助かります。松本駅から西へバスで山形村役場まで約 40 分で行けます。しかし今回は特別に松本から友人が車を出してくれて、すごくラクして山形村図書館へ向かうことができました。暑かったので本当にありがたかったです。このように乗せてもらうことは道内でもあります。

山形村とはどのような村でしょう？人口は 8400 人ほど。現在の夕張市の人口に近いです。

長野県の自治体面積では最も小さな村です。火山灰土の肥沃な農地が広がり、県内 1 位の生産量を誇る長いもをはじめ、ネギ、スイカ、りんごなどさまざまな野菜や果物の生産地として発展してきました。松本市のベッドタウンという位置にもなっています。ちなみに松本市の人口は 23 万 4 千人。北海道で言えば函館市に近い人口です。函館市は札幌、旭川に次ぐ人口なので、松本市がいかに大きな町かわかります。

山形村図書館は 2001 年、公民館図書室として開館。2011 年改築して図書館となります。図書館になって以来、貸出冊数、利用者数いずれも右肩あがりに増加。2017 年の時点で村民の 34%が図書館に登録しています。一体どのような図書館なのでしょう？

公民館図書室から図書館へ改修する際、今まであった扉を壁にしたり、入口を変えたりなど工夫の努力を感じます。入館すると靴を脱ぎ、大きな壁のような自動ドアが開いて入館できます。

閲覧席に公民館時代に使った洗面台が残っており、手を洗うことができます。閲覧席に水道が繋がっているという図書館は今まで見たことはありません。

館内の面積は松川村図書館より遥かに小さく 233 m²。公民館を改造しているので納得できます。蔵書は 3 万冊ほど。そこで図書館、博物館など複合施設の基本計画がまとまり、新図書館に向けて準備が始まっています。

https://www.vill.yamagata.nagano.jp/fs/1/0/9/8/6/5/_/報告書.pdf

車椅子が通れる幅が通路に必要。職員の作業場があまりに狭い。蔵書保存スペースの限界など課題てんこ盛りを解決する一歩を踏んだのです。

こじんまりとした館内には細部まできめ細かいケアをしているのが伝わります。ユニークなのは閲覧席にお勧め本をブックスタンドで置いてあること。これって着席したらふと手に取りますよね。このようなささやかな読書推進って好きです。もちろん小さな消しゴムのゴミ箱もテーブルの上に用意してあります。

新図書館でも土足厳禁にするかどうか現在検討しているようです。床に自由に座ることができる空間は北海道内、特に公民館図書室で見かけますが、鷹栖町図書室のように我が家の書斎のような感じで床に座ったり、寝転んだりして自由に、のんびり本に触れる環境は不思議と滞在時間も長くなり、本との距離を縮める効果があるんじゃないかなと思います。もちろん大型図書館ではなかなか難しいでしょう。このような小型サイズであれば住民に対してとても効果的だし、やはり長年土足厳禁だった「習慣」が利用者に染み込んでいるでしょう。

赤ちゃんから小学生を対象に「読書マラソン」を開催していました。学年や年齢別だけでなく、「ぐりとぐらコース」などコースも様々。

6年生は「ナルニアコース」として13冊がエントリーされ5冊読破すれば完走賞だそうです。リストに『クマのプーさん』（A・A・ミルン著）が入っているのに驚きました。

ところで山形村には全国的に珍しい近隣の自治体とまたがる中学校があります。松本市の今井地区、山形村、朝日村の3自治体にまたがる松本市山形村朝日村中学校組合立鉢盛（はちもり）中学校です。住所の表示は朝日村になっていますが、校内の敷地が松本市や山形村、朝日村にまたがっているという構造です。3地域の生徒が通学しています。

2025年7月訪問
加藤 重男